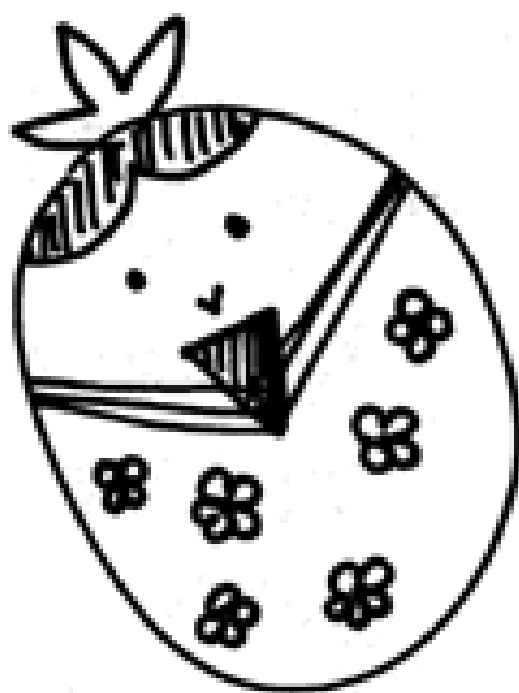
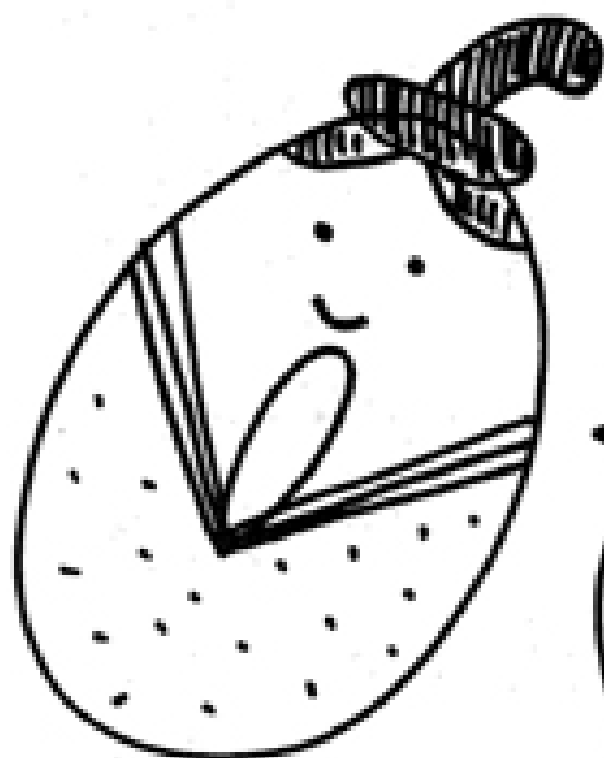


とよ・たち

美肌通信

3月号



第8号

ある本との出会いがき、かけで私には、開院以来
連日行っていることがあります。院内の男女2つの
トイレと洗面所の掃除がそれです。その本には、
「何事もやる以上は精魂込めて身につくように
やる。すると掃除のような日常のことでも十年
の間に格段の差が出るものだ」。

又、「どんな仕事でも、単純な仕事でも真心
を込めてやらないと具合が悪い。そこから
いろいろなものが生まれてくるわけや。掃除の仕
方でも、やっているうちに、こうゆう掃除の仕方
があるということが分ってくる。どんなにつまらん
と思える仕事でも、やる以上は精神を込めて
やらなければいけない」。(抜粋)

「植木のあいだを掃除している。葉がおちている。
その落ち方を見て、この植木は傷んでいるから、と
水をかけてやらなければいけないというようなこ
ともわがってくる。掃除をしながら、植木を育てる
こともできるわけや」。(抜粋)

掃除が単なる「掃除」としての行為におわるか否か、
考え方ややり方が異なれば、又同じことをするに
しても人間の違いによって見えてくるものが全く
違ってくる。正に雲泥の差が出るというものを
解っているのだと思いました。

それからトイレという所は、一人になれる場所
あることから“本質が出る場所”とも言われます。
そんなことから、トイレ掃除をすることで社会
の動向（今の日本人・私もその一員）が見えてくる
のではと思うこの頃です。

カウンターで年輩の方が、よく目を細めながら
口きものをしている光景があります。

しかしよく見るとカウンターには老眼金鏡が置
いてある。それが生かされていなり。サービスと
いう名のフェイスフレイだけになっている。

それを生かすか否かは受付職員の力量
(真面目)

であると思う。

もしそこで一言、「よろしかたらお使い下さい」
この一言で その老眼鏡はうかばれること
だろう。

雨の日の(雪の日)当院には傘と乾いたタオル
を置くことにしています。水滴が付いた服では
体が冷えてしまうこともあるでしょう。どうぞ
お拭きになりお待ち頂ける様お願い申し上げます。

話をトイレ掃除に戻しますが体なりに、
トイレ掃除をする様になってから他でのトイレの
使い方が以前と違って来たことを実感してあり
ます。これからもトイレ掃除を通じて広い視野
と確かな要諦をつかんでいけたらなあ
と思う次第です。

追伸：トイレに汚れがありましたらアンケート用紙
にお書き下さい。
気持ち良いトイレにして参りたいと考えて
おります。

院長：刀川